

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0492700018		
法人名	株式会社 ジェイバック		
事業所名	もも太郎さん(大郷) ユニット:1階		
所在地	宮城県黒川郡大郷町中村字原町10-5		
自己評価作成日	平成29年12月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成30年2月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設中央に広いリビングスペース、周りに個室があり、皆さんで過ごす場所と個人で過ごす場所が分かれています。居室にはトイレ・浴室・クローゼット・テレビ等が標準装備され気兼ねなく自由に使用ができ、プライバシーに配慮した環境になっています。リビングでは窓際で日向ぼっこしながら数人集まり昔話に花が咲き笑声が響いている光景を良く見かけます。ご自分たちのペースで居心地の良い空間を見つけ過ごされています。又職員と一緒に家事や掃除なども進んでお手伝いされ、家庭的な雰囲気の中で生活されています。定期的な地域の子供たちとの交流や、ボランティアさんの訪問もご利用者の楽しみともなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、洋風の2階建てで、近くには、大郷町文化会館、大郷町役場、町民体育館、コンビニ、ガソリンスタンド、道の駅などがある。毎年度、職員全員で理念を振り返り、日常的には自分達で作った理念を確認しながら、利用者を尊敬し、一人ひとりにあったケアを行っている。月1回、テーマにそった業務改善書を作成し、課題に向けて主体的に解決方法を模索する職員の取り組みが、ケアの質の向上に繋がっている。外出の年間計画を作成し、車いす対応の車で外出する機会を増やした。児童クラブの子ども達やボランティアの訪問で地域との関わりの機会が増えた。医療との連携が取れており、今年度看取り指針を作成し、全家族に説明をし同意を得た。ターミナルケアの研修も行っている。職員は毎月1回、テーマにそった事業所の業務改善書を全職員が提出し施設運営会議で話し合い業務の改善に繋げており、職員の働く意欲にも繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果（事業所名 GHもも太郎さん(大郷)）「ユニット名:1階」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体で掲げているスローガンもあるが、事業所内で職員が作成している理念がある。利用者様が地域と共に笑顔で過ごせるようにとの思いで作成。職員間ではミーティング等で共有し実践に繋げている。	毎年、職員のアンケートから選んだ理念を年度初めのミーティング時に全職員で確認している。理念「ありがとうの感謝の気持ちを忘れずに…」はフロアに掲げ、利用者が地域と共に笑顔で暮らせるケアに努めている。また、介護計画の作成にも生かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の敬老会や行事への参加、又、当事業所避難訓練時には近隣の住民に声掛け参加をお願いしている。毎月、児童クラブの子供達やボランティアさんの訪問もあり地域との繋がりを深めている。	地域の敬老会や夏祭りなどに参加している。事業所の夏祭りや避難訓練には近隣の住民に声かけしているが、近隣住民の参加はない。毎月、児童クラブや警察OBのボランティアの訪問があり、歌や踊りを楽しんでいる。町の広報紙から情報を得る努力をしている。	地域住民との交流が深められるような行事の運営方法を工夫し、地域との協力体制が構築できることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や家族の会の施設行事を通して事例報告や認知症についてのお話等をさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月毎に開催をし運営状況の報告や地域の行政からのご意見を頂き情報を共有しサービスの向上に努めている。福祉課よりご参加頂き年6回開催している。	民生委員・町職員・第三者委員・利用者家族・利用者・ケアマネ・管理者が参加し、年6回開催している。利用者の状態、相談内容、行事報告の他、話し合いの活性化を図るためテーマを設け意見交換を行い、運営やケアに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の現状を行政に相談を行ったり取り組みに関してご意見を伺ったりしながらサービスの向上に努めている。	町担当職員には、事業所の実情や利用者への対応などを相談し、外部評価には町からの同行があり、評価結果は町に提出している。地域包括支援センターとの連携体制があり、研修の情報提供もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待について年間行事に研修として取り入れ全体ミーティング等で職員の意見を聞き理解に努めている。危険がある場合はセンサーを使用して転倒防止を図っている。玄関は保安上の問題もあり夜間は閉錠をしているが日中帯の施錠は行っていない	身体拘束・虐待についての研修を年間研修計画に位置付け、理解を深めている。研修後は職員が感想文を提出し、ケアに活かしている。外出傾向が強い利用者の安全確保のため、日中も一部施錠を行うこともあり、気分転換を図るためにかかるたやトランプをするなど、対応を工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて虐待防止について話し合いを行い意見を貰っている。又、職員がお互い注意し合える環境作りもスローガンに掲げており、見過ごされる事の無いように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度についてミーティング等で内部研修を行い、各職員に周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に於いては契約、解約について分かり易く、問題点が残らない様ご理解、納得に至るまで説明を行い又、聞き出しやすい体制を取っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常に於いて家族様からの要望やご意見を電話や面会時にお聞きしている。ご利用者様に関しては直接職員と話し合う事が出来ており出された内容は話し合いを行い運営の改善に役立っている。玄関にはご意見箱の設置もあり第3者委員も委属している。	入居時及び面会時または電話で家族から要望を聞き、事業運営やサービスの向上に生かすようにしている。意見箱の設置や第三者委員を委嘱し家族が要望を出しやすい環境を整えている。おやつを持ち込みたいとの要望などに対応した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設の業務改善書を毎月職員より提出してもらい施設運営会議で一旦話し合い全体ミーティング時に繋げている。改善書・改善報告は本社にも提出している。	毎月1回、テーマにそった事業所の業務改善書を全職員が提出し施設運営会議で話し合い、全体ミーティングで確認している。利用者への接遇や家族への対応、衛生面に対する手立てなどを話し合い、ケアの向上に生かしている。管理者は、常日頃から職員の意見や相談に対応している。	職員間の介護技術の差を小さくし、底上げを図るために、研修やミーティングの充実を図ることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得や研修に於いて給与に反映できる環境にある。各人の能力に対して資格に元ずき職務に付くことも可能。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量や実績に於いて外部研修に参加できる機会を設けている。又内部研修による勉強会開催によって知識の修得、教える事の重要性に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や交流会を通じて同業者と交流する機会を設けている。当法人内でも研修や会議等が行われ情報の交換共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が不安に思っている事や要望に対して傾聴しながら、自立できる事柄を見出している。話しやすい環境を作り大切に、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約時に家族様・ご本人様の要望、困っている事柄を事前にお聞きし、ケアプランに落とし込んでいく。又お電話や訪問時、毎月のお手紙にて近況の報告を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状況を把握しご利用者様や家族様との話し合いの場を設け、適切なサービスが提供できるよう取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とご利用者様が共に助け合い共同生活を行う事で自立した生活を築き、信頼関係を作り上げる事が出来るよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の思いを尊重しこれまでの生活と変わりなく過ごして頂けるよう努めている。家庭的な雰囲気の中でご利用者様との関わりを多く持てるよう行っている。		
20	(8)	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	常時友人や家族ご近所の方々の面会や外出が出来るよう環境を整えている。又馴染みの商店で買い物ができるように支援を行っている。	家族や親戚、友人や近所の人が訪れやすいよう配慮している。馴染みの商店に職員と出かけ、交流を深めている。理容師が定期的に事業所を訪問している。家族と一緒にお盆やお彼岸には墓参りに行けるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の中でそれぞれが出来る範囲でお手伝いをし、お互いに協力し合っている。コミュニケーションが困難な時は職員が介入し円滑に会話が出来よう関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても関係性は失う事が無く近況の報告など連絡を取り合う事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居にあたり入居者様の生活歴を知り、ご希望・ご意向を重視し対応している。困難な時は家族様を通して趣味や思いを出来るだけ近づくよう情報の把握に努める。	入居にあたり利用者の生活歴や家族の意向・希望を確認しケアに生かしている。意向を把握するために選択肢を用意し、答えやすい質問で対応することもある。利用者のプライドを傷つけないよう、また、利用者間関係性にも常に配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居にあたり家族様や他事業所からの情報を基に以前の生活歴やこれまでのサービス利用の背景の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを把握しその方の有する力を理解し活動状況・精神状態を観察し必要に応じて支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族や医療機関との連携を図り状態に沿ったプランを作成している。又ご本人の希望や訴えに対して職員によるカンファレンスを実施し3ヶ月毎にプランを作成している。	月1回、職員がモニタリング用紙に利用者の新たなニーズに必要な対応を記録している。本人の意向、家族の要望、医療機関の指示やアドバイスを基に利用者の状態にそった介護計画を3ヶ月に一度、ケアマネと計画作成担当で作成している。家族には来所時や郵送で確認・同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月モニタリングを実施し職員からの意見、気づきや状態の変化を共有しプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態の変化、取り巻く環境の変動などその時々で、柔軟な対応が出来るよう常に状況を把握し判断出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域と共に暮らしていけるよう地域との交流を図る。地域で買い物をしたり顔見知りの関係を築く事で、地域で安全な生活環境が作られている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する医療機関に通院が出来る。基本的に通院は家族様をお願いしているが緊急時や必要に応じて職員が対応している。家族様通院時には日々の状況が分かるように利用者様情報を主治医宛に書面にて提供している。	通院は基本的には家族付添いで、必要に応じて職員が同行している。家族付添いの場合は、1週間分の利用者の状態を書面にて医師に伝えるようにしている。通院後は結果を聞き、申し送りノートに記録し、職員間で共有している。地域の医療機関と連携しており、緊急時などには往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関との連携が中心となっている。常にご利用者の健康状態を把握し緊急時には迅速に対応できるようにしている。通院時、事前に医療機関に連絡し相談する事もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の医療情報を得ている。必要時に施設側より情報を提供している。身体状況に変化が見られた時は医師への相談連絡等を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、段階的に家族様や医療機関と話し合いをし支援の方法を統一化し共有しながら取り組んでいく意向である(指針あり)。看取りの体制については医療と連携していくことで家族様にお伝えしている。	今年度、看取り指針を作成し、全家族に説明し同意を得た。看取りの経験はないが、看護師を中心にターミナルケアの研修を行っている。あくまでも本人、家族の気持ちを尊重し医師と相談しながら 納得できるケアを心がけている。看護師の勤務体制を変更する検討予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や急変時の研修を消防署にて実施し、全体ミーティングにて反復練習を行った。急変時には常に病院との連携を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。消防署や地域に声を掛けながら行っている。利用者様を安全に誘導する為に避難通路の確保等を職員間で共有している。	火災、風水害、地震対応マニュアルが整備されている。避難訓練は消防署立会いの基、夜間想定訓練を含めて年2回実施している。スプリンクラーは各居室に、火災報知器は各階台所と廊下に2台設置されている。備蓄は1週間分ある。感染症対策として、職員・利用者共に手洗い・うがい・マスク着用を励行している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格や生活歴を尊重し認知症の理解に努め個々に合った支援の仕方話方の対応に留意している。又接遇に関しても研修を行い、職員に意識付を行っている。	職歴や生活歴を尊重し一人ひとりに合った支援の仕方を検討している。年1回接遇やプライバシー保護についての研修を行い、より良いケアに努めている。呼び名は基本名前を「〇〇さん」と呼んでいる。プライドを尊重し、明るく丁寧な対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人が困っている事、不安な事、要望等を傾聴し、日常の生活で自立でき、思いが表現できる環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムを把握しゆったりとした雰囲気の中で過ごして頂ける様心掛けている。思いや要望を取り入れ満足感や充実感を得られる様支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容についてはご自分で行って頂くが、困難なご利用者様には、季節や室温に見合った衣類を提供している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の状態に合わせた食事形態になっている。季節に合わせたメニューやお誕生日メニュー等職員と一緒に楽しみながら食事をしている。下膳や片づけなどもお手伝いを頂いている。	メニュー、食材の準備は栄養面を考慮し、利用者の希望も取り入れながら職員が作っている。誕生日やクリスマス、ひな祭り、おせちなどの季節のメニューを取り入れて工夫している。家庭的な雰囲気、職員も利用者と一緒に食べている。食事形態は刻み食やおかゆなど利用者に合わせている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューは一緒だが食事形態を一人ひとり合わせて提供している。こまめに水分補給も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きや就寝前の義歯洗浄の声掛けを行っている。認知症状にて困難時は声掛けを工夫しながら、仕上げ磨きを行い習慣にし、口腔内の衛生に努めている。月1回訪問歯科往診があり指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様に合わせた排泄リズムで、トイレ誘導・リハP交換を行なっている。又見守りや声掛けで排泄できるよう自立排泄に向けて支援をしている。	居室にもトイレがあり、プライバシーに配慮した排泄支援をしている。排泄介助の際は、プライドを傷つけないように心がけている。便秘対策として牛乳やヨーグルトを取り入れ、医師から処方された下剤を服用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として食物摂取での自然排便を促しているが適度な運動、水分補給なども取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望に添った入浴時間や生活のリズムの中で最も適した時間帯に実施している。入浴がお好きでない方には希望をお聞きし必要に応じて清拭や、足浴等の支援も行っている。	基本は2日に1回の入浴とし、本人の希望にそった入浴時間、順番で支援している。入浴拒否の人には、無理強いをせず、職員がじっくり向き合い誘導や声掛けを工夫し、足浴や清拭で対応することもある。その都度、浴槽を洗いお湯を換えている。入浴剤は一人ひとりの状態に合わせて使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の生活リズムや体調に合わせて、いつでも休めるように室温調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用を正しく理解し処方に合わせて内服を行う。手渡しをし飲み込むまで確認を行う。薬の変更があった時は症状の変化・血圧・体温等に留意し変化が見られた時は都度医療機関の受診や指示を仰ぐ。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の趣味や生活歴に合わせた活動を行う。四季の行事や誕生会等を企画し全員で楽しむ事が出来るように支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節ごとの花見や、紅葉狩り等四季を通して外出を実施している。通院帰りに寄り道をしたり、買い物や美容院に家族や職員と出かける事もある。	定義への遠足、円通院の紅葉狩り、愛宕山へのシャクヤク見学などが年間行事計画の中に組み込まれ、季節ごとに外出を楽しんでいる。外出の際は、外食を楽しむ機会とし、前もって利用者が選んだメニューに応えられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持されているご利用者様は、通院や日常の買い物の際に使用されている。小銭だけを持たれている方も、自動販売機で飲み物をご自分で購入されている。使用しないが持っているだけで安心感を得ているケースも見受けられている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様のご希望にて職員が連絡し通話をご自分でされたり、携帯電話をお持ちの方は、自分で利用されている。家族様から来たお葉書を職員が代行で読む事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は適温、適湿管理をし明るく家庭的な雰囲気の中で気持ちよく過ごせるよう工夫している。花を飾ったり、飾りを取り入れ季節感を出している。トイレ・浴室は自立できる空間で安全に利用できるよう配慮している。	リビングは自然の光が差し込み、明るく開放的で、クッションフロアである。手づくりの大きなカレンダーは見やすい。温・湿度は職員が管理し、室温は常時、25℃、湿度は50～60%に保たれている。清掃は職員がローテーションで行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の空間で一人になれる場所は無いが、気の合った方々が過ごしやすいようにソファや椅子のセッティングを行い、個々の思いに寄り添えるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に使い慣れた物や馴染みのある物をお持ち頂くようお願いしている。ご自分の家と同じ雰囲気の中で過ごせるよう工夫をしている。	居室にはベッド・トイレ・洗面台・エアコン・テレビ・収納スペース・浴室が設置され、職員が温・湿度を管理している。利用者は使い慣れたものや馴染みの物を持ち込み、整理整頓された居室で居心地よく過ごしている。清掃は早番の職員が行い、整頓や細かい部分を担当職員が利用者と一緒にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活環境、住居環境に慣れ時間が経過するにつれてご自分で出来る事が増えてきている。自宅でご自分の衣類の整理やペットメイクが出来る様環境の整備を図っている。		

2 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0492700018		
法人名	株式会社 ジェイバック		
事業所名	もも太郎さん(大郷) ユニット:2階		
所在地	宮城県黒川郡大郷町中村字原町10-5		
自己評価作成日	平成29年12月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成30年2月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設中央に広いリビングスペースが、周りに個室があり、皆さんで過ごす場所と個人で過ごす場所が分かれています。居室にはトイレ・浴室・クローゼット・テレビ等が標準装備され気兼ねなく自由に使用ができ、プライバシーに配慮した環境になっています。家族部屋もあり広々とした空間でご家族様との時間を過ごすこともできます。入浴は好きな時間に毎日入ることができ自分のペースで過ごすことができます。1日の中で職員との会話やゲームで楽しんだり、フロアでご利用者様同士でカラオケを楽しまれたりと家庭的な雰囲気の中で過ごされています。又、毎月外出行事の計画を立てており、リフレッシュできる時間を設けることができ、ほぼ毎回全員参加される等、職員とご利用者様との信頼が強く発揮される行事ともなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、洋風の2階建てで、近くには、大郷町文化会館、大郷町役場、町民体育館、コンビニ、ガソリンスタンド、道の駅などがある。毎年度、職員全員で理念を振り返り、日常的には自分達で作った理念を確認しながら、利用者を尊敬し、一人ひとりにあったケアを行っている。月1回、テーマにそった業務改善書を作成し、課題に向けて主体的に解決方法を模索する職員の取り組みが、ケアの質の向上に繋がっている。外出の年間計画を作成し、車いす対応の車で外出する機会を増やした。児童クラブの子ども達やボランティアの訪問で地域との関わりの機会が増えた。医療との連携が取れており、今年度看取り指針を作成し、全家族に説明をし同意を得た。ターミナルケアの研修も行っている。職員は毎月1回、テーマにそった事業所の業務改善書を全職員が提出し施設運営会議で話し合い業務の改善に繋げており、職員の働く意欲にも繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 GHもも太郎さん(大郷)）「ユニット名:2階」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体で掲げているスローガンもあるが、事業所内で職員が作成している理念がある。利用者様が地域と共に笑顔で過ごせるようにとの思いで作成。職員間ではミーティング等で共有し実践に繋げている。	毎年、職員のアンケートから選んだ理念を年度初めのミーティング時に全職員で確認している。理念「ありがとうの感謝の気持ちを忘れずに…」はフロアに掲げ、利用者が地域と共に笑顔で暮らせるケアに努めている。また、介護計画の作成にも生かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の敬老会や行事への参加、又、当事業所避難訓練時には地域ご近所様に声掛け参加をお願いしている。毎月、児童クラブの子供たちや、ボランティアさんの訪問もあり地域との繋がりを深めている。	地域の敬老会や夏祭りなどに参加している。事業所の夏祭りや避難訓練には近隣の住民に声かけしているが、近隣住民の参加はない。毎月、児童クラブや警察OBのボランティアの訪問があり、歌や踊りを楽しんでいる。町の広報紙から情報を得る努力をしている。	地域住民との交流が深められるような行事の運営方法を工夫し、地域との協力体制が構築できることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や、家族の会等の施設行事を通して事例報告や認知症について支援の方法等お話をさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月毎に開催し運営状況の報告や地域や行政からのご意見を頂き、情報を共有しサービスの向上に活かしている。行政にご参加頂き年6回開催	民生委員・町職員・第三者委員・利用者家族・利用者・ケアマネ・管理者が参加し、年6回開催している。利用者の状態、相談内容、行事報告の他、話し合いの活性化を図るためテーマを設け意見交換を行い、運営やケアに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の実情を行政に相談を行ったり、取り組みに関して意見を伺ったりしながらサービスの向上に努めている。	町担当職員には、事業所の実情や利用者への対応などを相談し、外部評価には町からの同行があり、評価結果は町に提出している。地域包括支援センターとの連携体制があり、研修の情報提供もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当法人で教育委員会を制定。身体拘束・虐待等年間行事に研修として取り入れミーティング等で職員に周知している。	身体拘束・虐待についての研修を年間研修計画に位置付け、理解を深めている。研修後は職員が感想文を提出し、ケアに活かしている。外出傾向が強い利用者の安全確保のため、日中も一部施錠を行うこともあり、気分転換を図るためにかかるたやトランプをするなど、対応を工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて虐待防止について話し合いを行い、職員全体で取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度についてミーティング等で内部研修を行い、各職員に周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に於いては少しの疑問も不安材料になりえる事を考慮し分かり易く説明し解約に於いても同様問題点が残らないように理解、納得に努め聞き出しやすい体制を取っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常に於いて家族様からの要望ご意見を電話や面会時にお聞きしている。ご利用者様に関しては直接職員と話し合う事が出来ており、出された内容は職員間で話し合い改善に努めている。玄関には意見箱も設置している。	入居時及び面会時または電話で家族から要望を聞き、事業運営やサービスの向上に生かすようにしている。意見箱の設置や第三者委員を委嘱し家族が要望を出しやすい環境を整えている。おやつを持ち込みたいとの要望などに対応した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設の業務改善書を毎月職員より提出してもらいミーティングにて話し合い改善に努めている。改善書、改善報告は本社にも提出し、宮城ブロック内でも共有している。	毎月1回、テーマにそった事業所の業務改善書を全職員が提出し施設運営会議で話し合い、全体ミーティングで確認している。利用者への接遇や家族への対応、衛生面に対する手立てなどを話し合い、ケアの向上に生かしている。管理者は、常日頃から職員の意見や相談に対応している。	職員間の介護技術の差を小さくし、底上げを図るために、研修やミーティングの充実を図ることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得や研修に於いて給与に反映できる環境にある。各人の能力に対して資格に元ずき職務に就くことも可能。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量、実績に於いて、外部研修に参加できる機会を確保している。又研修計画に基づく内部研修による勉強会開催によって知識技術の習得に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や後援交流会等、同業者と勉強会を通じて交流する機会を設けている。当法人内でも月数回の会議にて情報の交換共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用様が不安に思っている事や要望に対して傾聴しながら自立出来る事柄を見出している。話しやすい環境を作れる様信頼関係作りにも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約時にご家族様の要望、困っている事を事前にお聞きしご家族様と共に解決できるような体制づくりを行っている。ケアプランに落とししていくと共にお電話やお手紙で近況の報告も行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状況を把握しご利用様やご家族との話し合いの場を設け、適切なサービスが提供できるように取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とご利用様が共に助け合い共同生活を行う事で自立した生活を築き、信頼関係を作り上げる事が出来るよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な連絡により面会や受診の協力をいただいている。ご本人の思いを尊重しこれまでの生活と変わりなく過ごして頂けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	常時友人や家族ご近所の方々との面会や外出が出来る環境を整えている。又馴染みの商店での買い物ができるように支援を行っている。	家族や親戚、友人や近所の人が訪れやすいよう配慮している。馴染みの商店に職員と出かけ、交流を深めている。理容師が定期的に事業所を訪問している。家族と一緒にお盆やお彼岸には墓参りに行けるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の中でそれぞれが出来る範囲でお手伝いをしお互いに協力し合っている。コミュニケーションが困難な時は職員が介入し円滑に会話出来るよう関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても関係性を継続できるよう近況の報告など連絡を取り合う事も増えてきている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居にあたり入居者様の生活歴を知り、ご意向ご希望を重要視し対応している。困難な時はご家族様を通して趣味や意向を出来るだけ近づけられるよう情報の把握に努める。	入居にあたり利用者の生活歴や家族の意向・希望を確認しケアに生かしている。意向を把握するために選択肢を用意し、答えやすい質問で対応することもある。利用者のプライドを傷つけないよう、また、利用者間の関係性にも常に配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居にあたり家族様や他事業所からの情報を基に以前の生活歴やこれまでのサービス利用の背景の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティングやモニタリングにより1人1人の生活リズムを把握し、その方の有する力を把握し、活動状況、精神状態を観察し必要に応じた支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様や医療機関との連携を密にし状態に添ったプランを作成している。又ご本人の希望や訴えをプランに反映し作成している。	月1回、職員がモニタリング用紙に利用者の新たなニーズに必要な対応を記録している。本人の意向、家族の要望、医療機関の指示やアドバイスを基に利用者の状態にそった介護計画を3ヶ月に一度、ケアマネと計画作成担当で作成している。家族には来所時や郵送で確認・同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月モニタリングを実施し職員からの意見、気づきや状態の変化等を共有しプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態の変化、取り巻く環境の変動などその時々で柔軟な対応が出来るよう常に状況を把握し判断できる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域と共に暮らしていけるよう地域との交流を図る。家族、地域の方との関係を継続できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する医療機関に通院が出来ている。基本的に通院は家族様をお願いしているが、緊急時や必要に応じて職員が対応している。通院時には利用者様の情報を書面にて医師に提供している。	通院は基本的には家族付添いで、必要に応じて職員が同行している。家族付添いの場合は、1週間分の利用者の状態を書面にて医師に伝えるようにしている。通院後は結果を聞き、申し送りノートに記録し、職員間で共有している。地域の医療機関と連携しており、緊急時などには往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関との連携が中心となっている。看護師を中心にご利用者様の健康状態を把握に努めている。緊急時には迅速に対応できるようにご家族様、医療機関との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の医療情報を得ている。必要に応じて施設側より情報を提供している。又身体状況に変化が見られたときは医師への相談連絡等を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、段階的に家族様や医師と話し合い支援の方法を統一し共有しながら取り組んでいる(指針あり)。看取りの体制については医療との連携を強化していく事で家族様にお伝えしている。	今年度、看取り指針を作成し、全家族に説明し同意を得た。看取りの経験はないが、看護師を中心にターミナルケアの研修を行っている。あくまでも本人、家族の気持ちを尊重し医師と相談しながら 納得できるケアを心がけている。看護師の勤務体制を変更する検討予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習会にて応急手当や初期対応の訓練を行っている。急変や事故発生時には病院と連携を図って医師の指示の下対応を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っており、消防署や近隣への声掛けにて実施している。利用者様を安全に誘導するため避難経路の確保等を職員間で共有している。	火災、風水害、地震対応マニュアルが整備されている。避難訓練は消防署立会いの基、夜間想定訓練を含めて年2回実施している。スプリンクラーは各居室に、火災報知器は各階段所と廊下に2台設置されている。備蓄は1週間分ある。感染症対策として、職員・利用者共に手洗い・うがい・マスク着用を励行している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格や生活歴を尊重し認知症の理解に努め個々にあった支援の仕方話し方、対応に留意している。又法人全体で接遇マナーの研修を行い職員にミーティングで周知を行っている。	職歴や生活歴を尊重し一人ひとりに合った支援の仕方を検討している。年1回接遇やプライバシー保護についての研修を行い、より良いケアに努めている。呼び名は基本名前を「〇〇さん」と呼んでいる。プライドを尊重し、明るく丁寧な対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が困っている事、不安な事要望などの訴えを傾聴し、日常の生活で自立でき思いが表現できる環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムを把握しゆったりとした雰囲気の中で過ごしていただけるよう心掛けている。思いや要望を取り入れ満足感や充実感が得られるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容についてはご自分で行って頂くが、困難な方については季節や室温に見合った衣類を提供し着用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の状態に合わせた食事形態になって居る。季節に合ったメニューやお誕生日メニュー等職員と一緒に楽しみながら食事を行っている。下膳や片付などもお手伝いを頂いている。	メニュー、食材の準備は栄養面を考慮し、利用者の希望も取り入れながら職員が作っている。誕生日やクリスマス、ひな祭り、おせちなどの季節のメニューを取り入れて工夫している。家庭的な雰囲気、職員も利用者と一緒に食べている。食事形態は刻み食やおかゆなど利用者に合わせている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューは一緒だが、食事形態をご本人に合わせて提供している。こまめに水分補給も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きや義歯洗浄の声掛けを行っている。認知症状にて困難な時は声掛けの工夫をし又、仕上げ磨きを行い、口腔の衛生に努めている。月1回訪問歯科往診にて指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々ご利用者様に合わせて排泄リズムを把握し、誘導や声掛けをするなど自立支援を意識して支援している。	居室にもトイレがあり、プライバシーに配慮した排泄支援をしている。排泄介助の際は、プライドを傷つけないように心がけている。便秘対策として牛乳やヨーグルトを取り入れ、医師から処方された下剤を服用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として食物摂取での自然排便を促しているが、適度な運動、水分補給なども取り入れている。排泄のリズムの把握に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望に添った入浴時間や生活のリズムの中で最も適した時間帯に実施している。拒否の利用者様に関しては誘導や言葉がけの工夫をし必要に応じて職員を変えて対応する事もある。	基本は2日に1回の入浴とし、本人の希望にそった入浴時間、順番で支援している。入浴拒否の人には、無理強いをせず、職員がじっくり向き合い誘導や声掛けを工夫し、足浴や清拭で対応することもある。その都度、浴槽を洗いお湯を換えている。入浴剤は一人ひとりの状態に合わせて使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の生活リズムや体調を考慮しながら、安心して休めるよう環境整備をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用を正しく理解し処方に合わせた内服を行っている。薬の変更があった時は症状の変化、血圧、体温等に留意し変化があった時は都度医師の受診や指導を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の趣味の実施や楽しみの提供に努めている。四季の行事や誕生会など企画し全員で楽しむ事が出来るように支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日々の中で外に散歩したり支援している。季節ごとにお花見や、紅葉狩り等外出を実施している。家族様と受診や食事などに出掛けているご利用者様もいる。	定義への遠足、円通院の紅葉狩り、愛宕山へのシャクヤク見学などが年間行事計画の中に組み込まれ、季節ごとに外出を楽しんでいる。外出の際は、外食を楽しむ機会とし、前もって利用者が選んだメニューに応えられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は家族様対応であるが、所持されているご利用者様は、外出や通院の際に使用されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様のご希望にて職員が連絡又はご自身で直接連絡されており、必要に応じて支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は適温・適湿管理をし明るく、家庭的な雰囲気の中で気持ちよく過ごせるよう工夫している。又ご利用者様の作品を飾ったり、四季に合わせた装飾をしている。	リビングは自然の光が差し込み、明るく開放的で、クッションフロアである。手づくりの大きなカレンダーは見やすい。温・湿度は職員が管理し、室温は常時、25℃、湿度は50～60%に保たれている。清掃は職員がローテーションで行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の空間で一人になれる場所はないが気の合った方々が過ごしやすいようソファや椅子を設置、個々の思いに寄り添えるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に使い慣れたものや馴染みのあるものをお持ちいただく様お伝えしている。ご自分の家と同じ雰囲気で過ごせるよう工夫をしている。	居室にはベッド・トイレ・洗面台・エアコン・テレビ・収納スペース・浴室が設置され、職員が温・湿度を管理している。利用者は使い慣れたものや馴染みの物を持ち込み、整理整頓された居室で居心地よく過ごしている。清掃は早番の職員が行い、整頓や細かい部分を担当職員が利用者と一緒にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活環境、住居環境に慣れ時間が経過するにつれてご自分で出来る事が増えてきている。安全に生活が出来るように環境の整備に努めている。		